

2020年1月8日

農林中央金庫
農林中金全共連アセットマネジメント株式会社

ESG テーマ型 J-REIT 運用商品の開発・投資について



農林中央金庫（代表理事理事長：奥和登、以下“当金庫”）は、グループ会社である農林中金全共連アセットマネジメント株式会社（代表取締役社長：吉田一生、以下“NZAM”）とともに、国内初となる、銘柄選定プロセスに GRESB^{※1}リアルエステイトを活用した J-REIT^{※2}に特化した運用商品を共同で開発し、当金庫から 100 億円の投資を行いましたので、お知らせいたします。

J-REIT 市場および国内不動産市場の成長に伴い、ESG に対する取組みの重要性は近年高まっています。そうした中、当金庫と NZAM が、不動産投資における主要な ESG 指標である GRESB を活用し、グローバル基準で高い評価を得た J-REIT を選別し、独自の分析モデルも加味して投資を行うことで、ESG と投資収益の両立を目指す手法を共同で開発しました。

本商品は、環境や健康、快適性に配慮した ESG に積極的に取り組む J-REIT を高く評価するのみならず、グリーンビルディングの普及拡大に貢献し、ひいては温室効果ガスの排出削減を通じた気候変動対策に貢献するものです。また、本投資は ESG の観点とあわせ、国際分散投資を通じた安定的な収益の確保にも資すると考えています。今後、市況に応じて、本投資の積増しも検討しております。また、NZAM を通じて、機関投資家や個人投資家への浸透も図ってまいります。

当金庫グループは、農林水産業や地域社会、そして事業活動が持続可能なものとなるよう、投融資などの事業活動を通じて環境・社会課題の解決に貢献し、SDGs の実現をはじめとするサステナブル経営を推進してまいります。

以上

農林中金全共連アセットマネジメント(NZAM)について

農林中金全共連アセットマネジメントは、1985年10月に農林中央金庫・全国共済農業協同組合連合会等の機関投資家によって設立されました。資産運用のプロ集団として、常にお客様の目線や立場で考えながら、持ち前の機動力とチームワークを発揮し、機関投資家の皆さまに対して的確なソリューションの提供を続けております(2019年9月末預り資産残高 5.9兆円)。

今年度、ESG評価を取り入れた独自の日本株のスマートベータ投資モデルを農林中央金庫と共同で開発するなど、ESG評価を運用プロセスに反映することに取り組んでいます。

今後も投資家の皆さまの負託にお応えしていけるよう、一層の役割発揮に努めております。

※1 GRESB（グレスビー）：旧名は Global Real Estate Sustainability Benchmark。不動産セクターの環境・社会・ガバナンス(ESG)配慮を測る、世界基準の年次のベンチマーク評価。欧州の主要年金基金を中心に2009年に創設され、現在では欧米を中心にグローバルに機関投資家が参画しており、日本ではNZAMが3社目の投資家メンバーとして加盟しております。

※2 J-REIT（ジェイ・リート）：Japan-Real Estate Investment Trustの略で、投資家から集めた資金で、オフィスビルや商業施設、マンション、物流施設などの複数の不動産を購入し、その賃貸収入や売買益を投資家に分配する商品。一般の株式と同様に売買可能な金融商品で「不動産投資信託」とよばれています。

【本件に関するお問い合わせ先】

農林中央金庫 総務部広報企画班 TEL:03-5222-2017

農林中金全共連アセットマネジメント 企画部 TEL:03-5210-8500